

EMERGENCY WATCH!!

疾患頻度

1. 急性上気道炎・感冒	592人
2. 感染性胃腸炎	560人
3. 咽頭炎・扁桃炎	223人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎	222人
5. 気管支炎	143人

No.78
Jun.2017

神戸こども初期急病センター

2017年5月受診者数 2551人

気候も徐々に暖かくなり、ジメジメした梅雨の到来が感じられます。食中毒が流行する季節ですので、食べ物の保管方法には十分に注意してください。今月はクループ症候群をとり上げてみたいと思います。

Q1. クループとは？

いわゆる風邪の一種と考えられています。声帯のすぐ上のところがウイルス感染によって炎症が起こり、発熱や咳、嘔声などの症状が生じると考えられています。好発年齢は、6か月から6歳頃とされています。

Q2. クループの症状とは？

医学的には犬吠様咳嗽(けんぱいようがいそう)といい、犬が吠えているような咳をするとされています。ある時外来で、「犬が吠えるような咳をしていませんか。」と患者さんのお母さんに尋ねたところ、「わん。」ってことですか。と質問を返されたことがあります。犬が実際に「わん。」となくかどうかの議論は別にして、一度クループの咳をきくとわかるのですが、「オットセイがなくような咳をしていませんか。」と尋ねるとピンとくる親御さんが多い印象です。

Q3. 治療は？

急性期の治療の第一選択としては、吸入です。吸入をするだけで症状が軽快することがありますが、ひどい発作が見られていた人や、吸入では改善しきらない人は、ステロイドが効果があるとされています。ただし吸入は直後に効果が見られるのに対して、ステロイド薬は効果が出現するまで数時間かかります。

Q4. 注意することは？受診のタイミングは？

クループ様の咳が止まらない、呼吸が苦しそう、咳で眠れないなどの発作の際には、夜間でも医療機関を受診することが望ましいです。別の病気としては、異物の誤飲やアナフィラキシーなどが考えられます。

また、通常クループであれば、特徴的な咳から時間が経つにつれて徐々に痰がらみの咳に変化していきます。2, 3日経っても特徴的な咳が続く、吸入やステロイドの効果があまり見られないなど非典型的な経過をとる際には、他の病気の可能性も考えられるため医療機関を受診することをお勧めします。

まとめ

- ・クループは、「オットセイが鳴くような」いつもと違った咳が特徴的です。
- ・夜間特徴的な咳が止まらない、呼吸が苦しそうななどの症状が見られた際にはすぐに医療機関を受診してください。